

● これまでの経緯

| 時 期 | 内 容 |
|-----------------|------------------------------------|
| R4. 8. 10 | 大鐵社長が川根温泉笹間渡～千頭の運行について相談 |
| R4. 8. 31 | 第 1 回 意見交換会開催(中部運輸局主催) |
| R4. 9. 23～24 | 台風15号により全線が被災 |
| R4. 10. 8 | 千頭～接岨峡温泉(井川線) 運行再開 |
| R4. 10. 13 | 第 2 回 意見交換会開催(中部運輸局主催) |
| R4. 10. 22 | 接岨峡温泉～井川(井川線) 運行再開 井川線全線運行再開 |
| R4. 12. 5 | 第 3 回 意見交換会開催(中部地域局主催) |
| R4. 12. 16 | 金谷～家山(本線) 運行再開 |
| R4. 12. 21 | 第 4 回 意見交換会開催(中部地域局主催) |
| R5. 1. 18 | 県知事あて要望書の提出 |
| R5. 3. 22 | 第 1 回 大井川鐵道本線沿線における公共交通のあり方検討会開催 |
| R5. 4. 17/5. 11 | 検討会による現地調査 |
| R5. 6. 19～20 | (独)鉄道・運輸機構及び(公財)鉄道総合技術研究所による被災箇所調査 |
| R5. 7. 12 | (公財)鉄道総合技術研究所によるトンネル調査 |
| R5. 10. 1 | 家山～川根温泉笹間渡(本線) 運行再開 |
| R5. 11. 29 | 第 2 回 大井川鐵道本線沿線における公共交通のあり方検討会開催 |
| R6. 1. 29～2. 29 | 「地域の声」聴取(計15回 63名とのヒアリング) |
| R6. 3. 26 | 第 3 回 大井川鐵道本線沿線における公共交通のあり方検討会開催 |

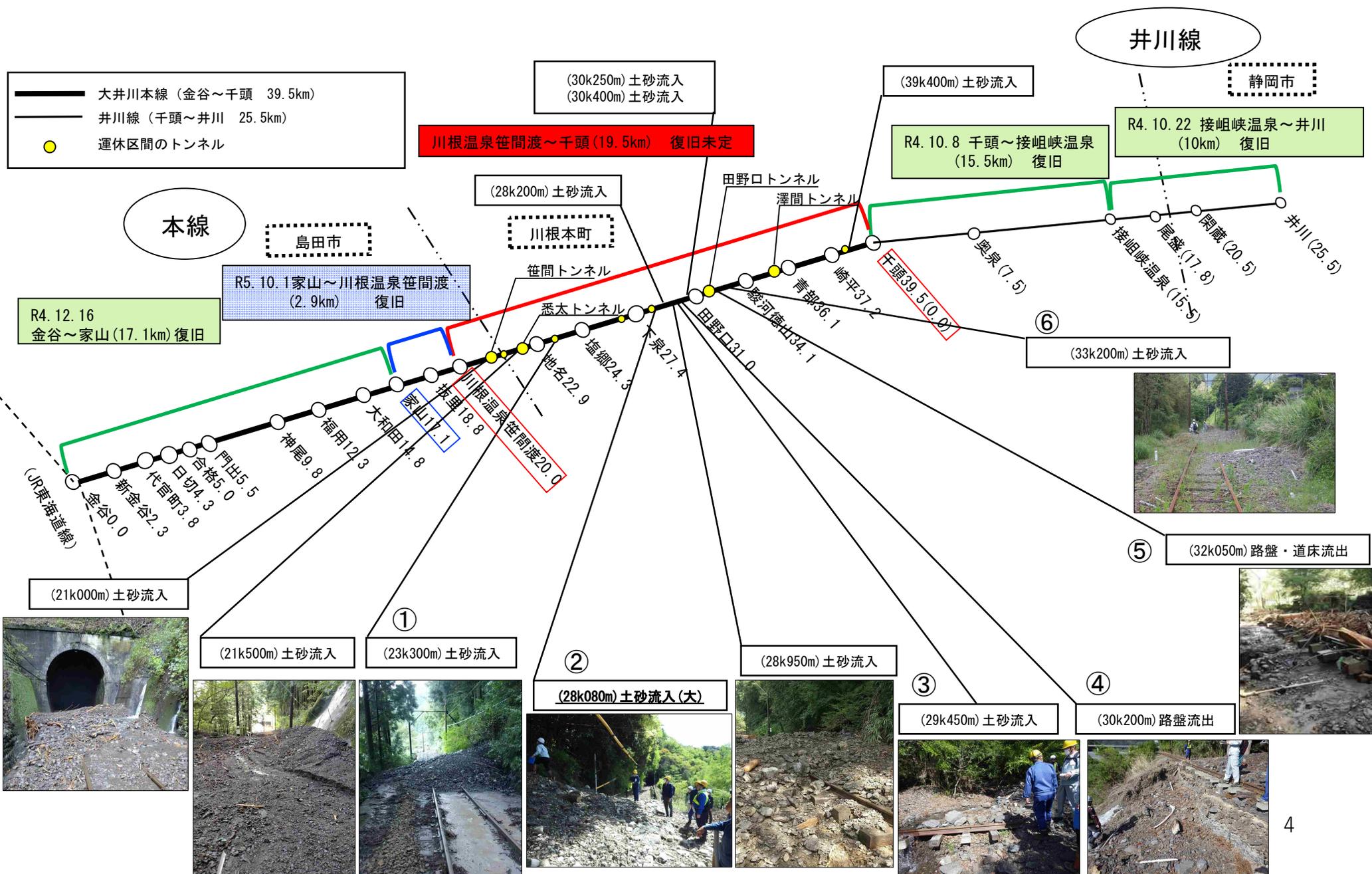
● 検討会の経過

| 時 期 | 会 議 名 | 内 容 |
|------------|-------------|--|
| R5. 3. 22 | 第 1 回 検討会開催 | ・ 大井川鐵道の現状の確認 |
| R5. 6. 5 | 担当者による打合せ | ・ 検討会による現地調査の現状報告 （復旧の長期化・トンネルの老朽化） ・ (独)鉄道・運輸機構と(公財)鉄道総合技術研究所へ大鐵から技術的助言の依頼をした旨の報告 |
| R5. 7. 27 | 担当者による打合せ | ・ (独)鉄道・運輸機構からの技術的助言についての現状報告 |
| R5. 10. 11 | 担当者による打合せ | ・ (独)鉄道・運輸機構と(公財)鉄道総合技術研究所からの技術的助言を受けて大鐵が算定した運行再開に必要な費用について現状報告 |
| R5. 11. 29 | 第 2 回 検討会開催 | ・ 運行再開に要する費用の確認 |
| R6. 1. 26 | 担当者による打合せ | ・ 方針の確認 ・ 検討会まとめ（案）の提示 |
| R6. 3. 13 | 担当者による打合せ | ・ 検討会まとめ（案）の確認 ・ 地域の意見について報告 |
| R6. 3. 26 | 第 3 回 検討会開催 | ・ 運行再開を目指した検討を継続する方針を確認 |

●現地調査

| 調査日 | 調査箇所 | 参加者 |
|------------------|--|---|
| R5. 4. 17 | 川根温泉笹間渡～地名（土木4箇所、軌道2箇所） 地名～塩郷（土木1箇所、軌道1箇所） 下泉～田野口（土木13箇所、軌道7箇所） | 中部運輸局 島田市、川根本町 中部電力(株) 静岡県 |
| R5. 5. 11 | 川根温泉笹間渡～地名（土木3箇所、軌道1箇所） 地名～塩郷（土木1箇所、軌道1箇所） 田野口～駿河徳山（土木2箇所、軌道2箇所） 崎平～千頭（土木1箇所、軌道1箇所） | 静岡県 |
| R5. 6. 19 ～20 | 川根温泉笹間渡～千頭 （土木26箇所、軌道13箇所） ※土木施設と軌道を分けて調査 | (独)鉄道・運輸機構 (公財)鉄道総合技術研究所 中部運輸局 静岡県 |
| R5. 7. 12 | トンネル4箇所 （笹間トンネル、悉太トンネル、田野口トンネル、 澤間トンネル） | (公財)鉄道総合技術研究所 中部運輸局 静岡県 |

●被災状況



●被災状況

| 区間 | 被災箇所数 | 運行状況 |
|--------------|-------|----------------|
| 門出駅～神尾駅 | 2箇所 | R4. 12. 16運行再開 |
| 神尾駅～福用駅 | 2箇所 | |
| 福用駅～大和田駅 | 2箇所 | |
| 大和田駅～家山駅 | 1箇所 | |
| 小計 | 7箇所 | |
| 川根温泉笹間渡駅～地名駅 | 6箇所 | 運休中 |
| 地名駅～塩郷駅 | 2箇所 | |
| 下泉駅～田野口駅 | 1 3箇所 | |
| 田野口駅～駿河徳山駅 | 2箇所 | |
| 崎平駅～千頭駅 | 1箇所 | |
| 小計 | 2 4箇所 | |

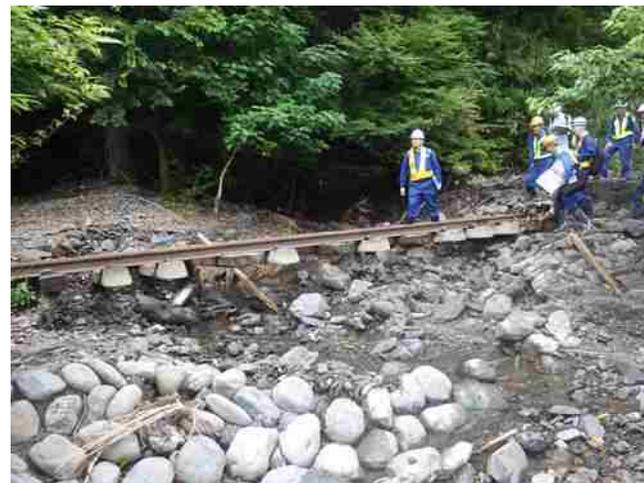
●被災状況



①地名～塩郷間



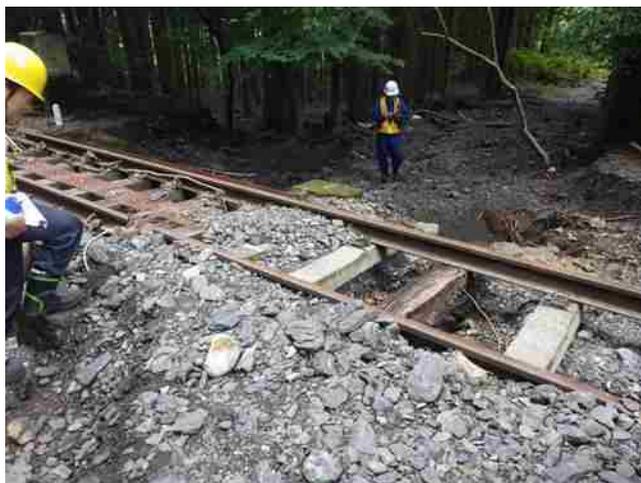
②下泉～田野口間



③下泉～田野口間



④下泉～田野口間



⑤田野口～駿河徳山間



⑥田野口～駿河徳山間

●施設の老朽化



笹間トンネル（覆工ブロックの抜け）



悉太トンネル(偏圧による歪み)



田野口トンネル(覆工の剥離)



澤間トンネル(覆工のひび割れ)

1 現状

- ・大井川鐵道本線については、令和4年9月の台風15号による被災により、全線が不通となったが、その後復旧が進み、令和5年10月1日現在、全線39.5kmのうち金谷駅から川根温泉笹間渡駅までの20kmが復旧している
- ・不通区間については、町営バスにより代替している
- ・川根温泉笹間渡駅から千頭駅までの19.5km区間の運行再開には、約22億円（災害復旧で約5億円、老朽化したトンネル等の機能回復で約17億円）が必要である
- ・大井川鐵道の利用者は約8割が定期外で、近年減少傾向であったところに、新型コロナの影響を受けてさらに利用者が減少し、経営状況が悪化している中で、台風15号による被災が重なり、自力での復旧等が困難な状況にある
- ・川根本町では観光産業を中心に影響が生じている

2 課題

運行再開について検証したところ、以下の課題が明らかになった

(1) 今後の事業継続のあり方

- ・バスとの役割分担（日常生活・観光）など、沿線の公共交通の持続可能なあり方

(2) 費用・体制等

- ・運行再開に必要な費用の調達
- ・鉄道施設以外の隣接した斜面や河川等の災害発生源の対策

3 今後の方向性

- ・沿線地域における大井川鐵道の観光資源としての重要性や地元住民等からの熱い期待、そして大井川鐵道の運行継続への強い意気込み等を踏まえ、早期の運行再開を目指した検討を継続する

4 取組内容

(1) 今後の事業継続のあり方検討

- ・関係者の役割分担、地域公共交通としての位置付けの検討（バスと大井川鐵道の運行再開後の役割整理など、沿線における公共交通のあり方の整理）
- ・大井川鐵道がもたらす経済波及効果（広域的・限定的）等の検証

(2) 費用・体制等の確保

- ・費用の確保（費用の負担調整、財源確保のための住民を巻き込んだクラウドファンディングや企業版ふるさと納税、利用促進策等の実施等）についてできるだけ早期に調整
- ・災害復旧、機能回復、防災改良の実施計画の調整
- ・鉄道施設に隣接した斜面や河川等への災害発生源対策の調整